

Title	小特集：「国際協調体制の再構築」について
Sub Title	序 Preface
Author	塩澤, 修平
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1995
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.88, No.2 (1995. 7) ,p.147(1)- 149(3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集：「国際協調体制の再構築」について
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19950701-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小特集：「国際協調体制の再構築」について

現在の日米自動車問題に端的に現れているように、現実の国際社会では、貿易や資本移動、あるいは為替レートの決定など、複数の国々の相互依存関係が、各国の厚生水準に直接かかわってくる現象が多い。そうしたなかで、各国相互の利害や国内の利益集団などの行動がどのように関係し、各国がどのような行動をとるべきかを考察することは経済学の重要な課題である。このような問題意識の下に1994年度慶應義塾経済学会第2回コンファレンスは国際協調機構の再構築というテーマで、12月26日・27日に以下のプログラムに従って行われ、25名の研究者が参加した。なおコンファレンス・プログラムの作成と運営には大山道広教授と塩澤修平が当たった。

第1セッション 座長 大山道広（慶應義塾大学）

1. 報告者 木村福成（慶應義塾大学）

The Optimal Degree of International Economic Integration :
The Multiple Circular Markets Approach

討論者 石井安憲（横浜市立大学）

2. 報告者 大滝雅之（青山学院大学）

「埋没費用，リスク・シェアリング，及び経済成長」

討論者 吉野直行（慶應義塾大学）

3. 報告者 出井文男（神戸大学）

“Complementarity, World Prices, and Expectations as
Determinants of Industrialization”

討論者 柳川範之（慶應義塾大学）

4. 報告者 竹森俊平（慶應義塾大学）

“Does Direct Investment Promote Free Trade?”

討論者 清野一治（早稲田大学）

第2セッション 座長 和気洋子（慶應義塾大学）

1. 報告者 寺崎克志（二松学舎大学）

「国際公共財の協調的供給機構」

- 討論者 塩澤修平 (慶應義塾大学)
2. 報告者 酒井良清 (横浜市立大学)
「ロシア経済における複数通貨の分析」
- 討論者 小川英治 (一橋大学)
- 第3セッション 座長 若杉隆平 (横浜国立大学)
1. 報告者 藤田康範 (慶應義塾大学)
「販売拡大企業への報復関税と世界経済」
- 討論者 吉岡忠昭 (神奈川大学)
2. 報告者 長岡貞男 (成蹊大学)
“Antidumping Policy and Competition”
- 討論者 須田美矢子 (学習院大学)
3. 報告者 清野一治 (早稲田大学)
“Trade Policy Formation and Industry Specific
Interests in Trade Warfare”
- 討論者 深尾京司 (一橋大学)

この小特集では、コンファレンスでの議論を踏まえて、報告者に改めて執筆を依頼した論文を掲載するものであり、論文題名や内容はコンファレンスでの報告と必ずしも一致していない。また一部の方については、報告者ご自身の都合により、今回は掲載をしていない。以下で掲載論文について簡単な紹介を行う。

木村福成氏「最適な経済統合：サロップ型製品差別化モデルに基づく考察」は、最適な経済統合の度合いをめぐる政府の政策決定を分析するための理論的枠組を考察している。そこでは水平的に差別化され競争が局地化されている財を考え、複数の円環型市場を導入し、政府による最適な貿易政策ならびに市場規模や商品差別化の程度の違いにより政策がどのように変わってくるかを分析している。

大瀧雅之氏「埋没費用、リスク・シェアリング、及び経済成長」は、厚生経済学の基本定理が前提とするような諸条件が満たされていない、いわゆる「決善問題」の状況において経済成長と所得分配の間の理論的な関連を考察したものである。現実では経済成長の礎となる物的・人的資本への投資は、不確実性に直面した上で決断されることを踏まえて、不確実性下の埋没費用投資の意思決定問題を導入した内生的モデルを構築し、所得再分配政策の経済成長に与える影響を分析している。

竹森俊平・津曲正俊氏「直接投資と貿易政策」では、直接投資を原因、貿易政策を結果とした因果関係を前提とし、その両者の理論的関係をゲーム理論的な手法によって分析している。そこでは

アメリカは貿易政策を決定し、日本は直接投資を決定するゲームを考え、日本の行動様式に関する三つの異なるシナリオの下での結果を比較対照している。

寺崎克志氏「国際公共財と経済厚生」は、生産要素の移動の困難性と経済政策の相違などを考慮に入れて、国内公共財に関する議論を国際公共財に関する議論に拡張している。そして経済援助や軍事支出の問題などに適用し、いくつかの結論を導いている。

酒井良清氏「なぜロシア経済においてルーブルが消滅しないか？ — 超インフレ通貨の非消滅性 —」は、現実のロシア経済で起こっているルーブルとドルという異なる通貨が流通している通貨代替の問題を、市場機構の発達が不完全であるということを踏まえて、世代重複モデルの枠組みを用いて解明している。

藤田康範氏「アンチダンピング政策の経済分析」は、輸入国の企業がアンチダンピング法を濫用して不当に高い利潤を獲得しているのではないかと問題意識の下に、アンチダンピング提訴の取り下げを組み込んだモデルにおいて、アンチダンピング政策のもたらす経済効果を分析している。そこでは、輸出・輸入両国企業間の交渉を、逸脱の可能性を考慮した無限繰り返しゲームの枠組みのなかで定式化している。

清野一治氏「貿易政策の内生的決定と産業利益」は、各国の貿易政策は国民経済全体を見渡しているというよりも、むしろ国内の各産業の利益を代弁する利益団体がロビー活動を通じて積極的に政策のあり方に影響を及ぼした結果であると捉え、関税戦争の枠組みにおいて、各産業にとっての直接的な利害が関税政策の決定に及ぼす影響を考察している。そして、産業特殊な利害から政策決定への影響の大きさは、関税引き上げがもたらす要素所得シェア効果の大きさに依存すること、各国の政策目標となる利害が異なれば、世界はより深刻な保護主義に陥ってしまうことなどが結論として得られている。

このコンファレンスにおける報告と議論が、参加者の今後の研究を促進し、この小特集が当該分野に関心をもつすべての読者の研究に資することを期待したい。報告者を始めコンファレンスに参加いただいたすべての方に、この場を借りて改めて篤く御礼申し上げる。

コンファレンス実行委員 塩澤修平
(経済学部教授)